

東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会資料

H23.5.28 名古屋大学・福和伸夫

東日本大震災

- ・ M9、広域・複合災害：揺れ＋津波＋原発、全て発生、原発は想定外、続発する余震・誘発地震・火山
- ・ 死者・行方不明 2.5 万人、10 万人の避難者、原発避難、地盤沈下・津波による土地喪失
- ・ 救命・救急、医療、遺体処理、避難、瓦礫、物資、物流、仮設住宅、復旧、何れも対応力を超える
- ・ 町ごと被災（役場・病院・消防・学校を喪失）、電力喪失、サプライチェーンの破たん、浜岡問題
- ・ 大都市の脆弱性：帰宅困難、タンク火災、湾岸地域の液状化被害、計画停電
- ・ 災害対策基本法（ボトムアップ、単県被災）の限界、対口支援の有効性
- ・ 20～30 兆円の経済被害、経済停滞、国際的信用（科学技術・安全安心）の失墜
- ・ 869 年貞観地震、国府：郡山→多賀城（日本三代実録）、末の松山（浪こさじ）& 沖の石（乾く間もなし）
後拾遺和歌集 清原元輔 契りきな かたみに袖を しほりつつ 末の松山 なみこさじとは
千載和歌集 二条院讃岐 わが袖は潮干（しほひ）に見えぬ 沖の石の 人こそ知らね 乾く間もなし
- ・ 863 年 越中越後の地震、864 年 富士・阿蘇噴火、868 年 播磨山崎の地震、869 年 貞観地震、878 年 関東の地震、887 年 南海トラフ地震：地震・噴火・疫病・干ばつ・台風・飢饉・海賊・隕石 ⇒ 祇園祭
- ・ 1611 年慶長地震、浪分神社、浪切不動、奥羽街道
- ・ 防災教育と災害教訓伝承の重要性：自主的避難
- ・ 耐震化の重要性：耐震性の低い建物が少なかった 1978 宮城県沖地震、1994 三陸はるか沖地震、2003 宮城県北部地震、2005 宮城県沖地震、2008 岩手宮城内陸地震



多賀城跡



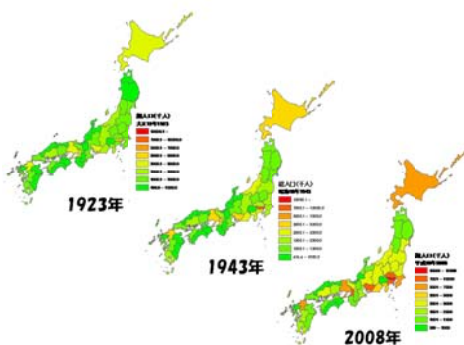
末の松山



沖の石

東海・東南海・南海地震

- ・ 1498 明応地震、1605 慶長地震、1707 宝永地震、1854 安政地震、1944&46 昭和地震
- ・ 明応地震と安濃津&今切、天正地震と木曾川河道、慶長地震と清洲越、広小路・四間道・百米道路
- ・ 少子高齢化、債務、複合&広域災害、低平地利用、選択と集中、高機能高密度社会、専門的協働社会
- ・ 土地利用、俯瞰的協働社会、自律分散、地域力・市民力、耐震化&家具、防災教育、郷土史、50/60Hz



参考文献

飯沼勇義：仙台平野の歴史
津波、宝文堂、1995